

南大塚古墳

みなみおおつかこふん



文化財愛護シンボルマーク

名称	南大塚古墳	所在地	加古川市加古川町大野 日岡山公園
旧称	王塚		地内（加古川町大野 1658 番地及び
数量	1 基		その隣接地の一部）
形態	前方後円墳	管理者	加古川市
規模	全長約 90 m、後円部径約 54 m、 前方部長さ約 36 m、後円部高約 7.5 m、 前方部高約 4.9 m	指定	加古川市指定文化財
時代	古墳時代前期／4 世紀	指定分類	史跡
		指定名称	南大塚古墳及び西大塚古墳
		指定年月日	令和 6（2024）年 3 月 7 日



南大塚古墳

南大塚古墳は、日岡山古墳群を構成する主要古墳のひとつで、古墳時代前期に築かれたと考えられている5基の前方後円墳のうちのひとつです。日岡山公園の一角にあり、北側に隣接する西大塚古墳（前方後円墳）とともに令和5（2023）年度に加古川市指定文化財に指定されました。

古墳は、前方部を南西に向けて築かれており、高さは前方部側で約4.9m、後円部側で約7.5mです。これまで墳丘部分の発掘調査は実施されていませんが、昭和期の周濠部分における確認調査で埴輪と葺石の存在が確かめられ、令和6（2024）年度には前方部南側での本格的な調査によって、幅約13mの周濠であることがわかりました。埴輪は主に円筒埴輪の破片で、わずかに朝顔形円筒埴輪を含んでいます。いずれも出土量が非常に少ないため、前方部側にはあまり埴輪を樹立していなかった可能性があります。

埋葬施設は、後円部と前方部に各1基の堅穴式石室が知られています。いずれも古墳の中軸線に対して直交する配置を示し、後円部には天井石の一部や石室の裏込め石と考えられる角礫が露出しています。前方部の石室は、戦後の土取りによって一部が露出した状態でしたが、現在は盛土によって保護されています。昭和51（1976）年に石室の状況を記録する調査が実施され、板石を小口積みにした石室であることや、底面に施された排水のための礫敷きや粘土床の存在などが確認されています。調査中に小さな銅鏡片が採集され、福岡県糸島市にある一貴山銚子塚古墳（前方後円墳）出土の仿製三角縁神獸鏡と同範とされています。

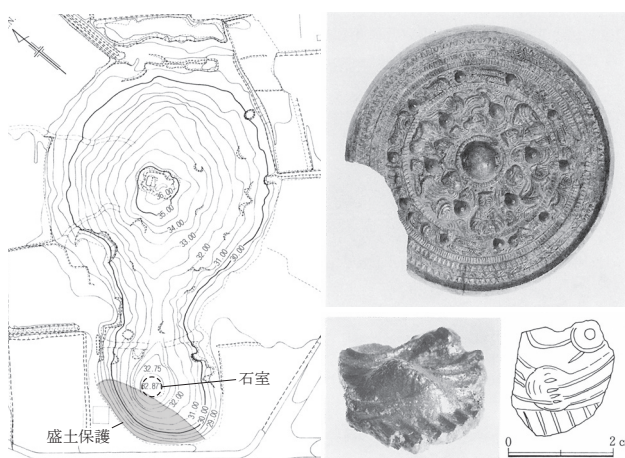
また、この時の調査よりも古くに、同じ日岡山古墳群を構成する勅使塚古墳（前方後円墳）の墳丘上で拾われたとされる仿製三角縁神獸鏡1面があり、こちらも一貴山銚子塚古墳出土品と同範であることが指摘され、様々な検討の結果、南大塚古墳の前方部に露出していた石室内から持ち出され、何らかの理由で勅使塚古墳に遺棄された可能性などが論じられています。



まだまだ情報が少なく不明な点が多いですが、これらの内容から古墳築造の時期は古墳時代前期後半（4世紀後半）と考えられています。

南大塚古墳は、日岡山古墳群中で最大規模の前方後円墳であり、これまでの調査や研究によって、周濠の規模や形態、埴輪や葺石、堅穴式石室の存在、三角縁神獸鏡の副葬など、多くの貴重な情報を内包している古墳であることがわかってきています。ヤマトの王権と密接な関係があったと考えられる当時の加古川下流域の実態について考える上で欠かすことのできない重要な古墳といえます。

（写真・文／山中）



墳丘測量図（左）、勅使塚古墳出土三角縁神獸鏡（右上）、南大塚古墳出土三角縁神獸鏡（右下）

『加古川市史』より転載、図は一部加筆修正

●参考文献

- 上田哲也「兵庫に於ける周濠を備える前方後円墳の変遷」『兵庫史の研究』神戸新聞総合出版センター（1985年）
- 北山 惇「東播地域の堅穴式石室について」『播磨・竜山5号墳発掘調査報告』竜山5号墳発掘調査団・高砂市教育委員会（1978年）
- 北山 惇「加古川市南大塚古墳の前方部堅穴石室と出土の三角縁神獸鏡について」『神戸古代史 No.8』神戸古代史研究会（1989年）
- 『加古川市史 第4巻』加古川市（1996年）

- キーワード 日岡山古墳群 前方後円墳 周濠 葺石 埴輪 円筒埴輪 朝顔形円筒埴輪 堅穴式石室 仿製三角縁神獸鏡 同範 一貴山銚子塚古墳 勅使塚古墳
- 所在地 兵庫県加古川市加古川町大野 日岡山公園地内（加古川町大野1658番地及びその隣接地の一部）
- 交通 JR加古川線「日岡」駅から南東へ徒歩15分